

成果の説明書

(氏名) 黒崎 龍悟	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p><研究></p> <p>科学研究費補助金（「その他の事項参照」）をもとに東アフリカ・タンザニアの農村を事例に、草の根の自然エネルギー利用の実態について調査研究を続けている。R5年度は2月に渡航し、3地域の動向について情報収集した。この調査の内容の一部は来年度のアフリカ学会報告および地域科学研究所プロジェクトの成果報告論文として発表する予定である。また、昨年から継続している明治～昭和初期の大河川における水車利用について「資料紹介」、一般向け図書のコラムとしてまとめることができた。また、適正技術論とイノベーション論の関連についてまとめたものを研究ノートとして発表した。2021年に研究ノートとしてまとめた群馬県東南部のキャッサバ栽培について一般向け図書の論文として発表した。</p> <p>• 出版物</p> <ul style="list-style-type: none">黒崎龍悟（2024）「群馬で熱帯作物に出会うーキャッサバが生み出す多文化ネットワーク」高崎経済大学地域政策学部観光政策学科編『大学的群馬ガイド』昭和堂、73-86ページ。黒崎龍悟（2024）「コラム 草の根のイノベーター・永井長治郎」高崎経済大学地域政策学部観光政策学科編『大学的群馬ガイド』昭和堂、87-89ページ。黒崎龍悟（印刷中）「適正技術論とイノベーション論の接合に関する一試論」『高崎経済大学論集』黒崎龍悟（2024）「明治～昭和初期の多摩川本流における水車利用」『産業研究』59(1): 57-66. <p><教育></p> <p>これまでに小レポートや期末レポート中心であった評価方法を全面的に変えることを試行している。具体的には意見の論述を基本とする課題を毎回課すこと、コロナで中断していたグループワークの再導入、また議論への積極的な参加を加点対象とするなどをおこなった。グループワークは学生たちの反応が良かったので継続していく。R6年度は授業評価などを参考にしながら授業形態の改善を続けていく。ゼミにおいては、海外フィールドワーク（タンザニア。7名参加）に加えて卒業論文作成のための合宿を学生とともに企画・実施した。また、卒業論文（7名）を指導した。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <ul style="list-style-type: none">• 学内業務：教務委員などを担当した。• 外部資金獲得状況・共同研究など<ul style="list-style-type: none">• 科研費・国際共同研究加速基金（海外連携研究）「現代アフリカ農村における環境利用／保全の知識・技術の共有と継承に関する学際的研究」（代表）• 科研費・基盤（B）「タンザニア半乾燥地域における混交林の形成と持続的な利用に関する実証的研究」（分担）• 科研費・基盤（B）「東アフリカの再エネ開発をめぐる社会的合意形成と土地利用再編の解明」（分担）• 科研費・基盤（B）「タンザニア農村における電化のインパクトと再生可能エネルギー導入に関する学際的研究」（分担）	

- 高崎経済大学・地域科学研究所研究プロジェクト「日本における「持続可能な地域」実現の展望と課題—ガバナンスと域内経済循環の観点を中心に—」
(分担)

3 次年度以降の計画・抱負

新たに科研費が採択されたので、分担者らとの連絡を密にしながら研究内容を深めていきたい。また、国内を対象とした研究については、大河川における水車利用の歴史を論文としてまとめ、投稿することを目指す。R5年度は社会貢献事業への参加がなかったため、市民講座などでの報告に積極的に関わっていきたい。